

学級だよりを発行しよう！

～ 保護者とのかかわりを深めよう ～

平成24年4月24日発行

新年度が始まって、はや1ヶ月が経とうとしています。

新しい学級の様子は、いかがですか？

1年間の学級には、良い出来事もあれば、問題行動も起こります。良い出来事は大いに褒め、問題行動に対しては、毅然とした態度で臨み、解決を図りましょう。

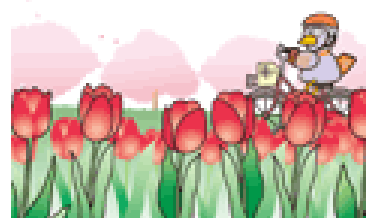
問題行動は、表面的な出来事だけを見るのではなく、子どもの心理状況や家庭環境等、行動の原因を探ることが必要です。

学級としての問題を解決することで、学級はよくなります。“ピンチはチャンス”と言いますが、学級に問題が起こった際には、指導のチャンスと捉え、前向きに取り組みましょう。一人で抱えこまず、学年主任や管理職と相談しながら、取り組むことが大切です。

学級の問題を早期に見付け、よりよい解決を図るためには、普段の子どもたちとのかかわりを密にしておくことが重要です。普段の何気ない会話、授業や生活でのかかわり、遊びを通じたかかわりなどを大切にしましょう。特に年度初めの、今の時期は、意識してかかわりを増やしましょう。

また、保護者とのかかわりも大切です。

今回は、保護者とのかかわりを深める一つである“学級だより”の発行について紹介します。



1 学級だよりを発行すると、こんないいことが！

☆保護者との連携が深まる。 ⇒ 保護者からの信頼が得られる。

保護者は日頃から、子どもや学校、学級の様子を知りたがっています。

しかし、学校での出来事をよく話す子どももいますが、話さない子どももたくさんいます。学年が上がると、だんだん学校での出来事を話さなくなるなどということは、よく聞くことですね。

「学級だより」で学級や子どもの様子を知らせてくれるので、とてもありがたいと保護者は言います。「学級だより」を発行することで、保護者からの信頼を得ることができます。

☆子どもたちが、感想等の文章をしっかりと書くようになる。

行事が終わったあとの感想や道徳の時間の感想を学級だよりに載せると、子どもたちは、「あっ、〇〇さんの感想だ。」と言ってよく読みます。



家庭でも、「〇〇さんは、こんなことを考えているのだね。」とか、「素敵なことを書いているね。」という会話になるようです。

初めのうちは、学級だよりに紹介されたことを恥ずかしがっている子どもも、紹介されることを喜ぶようになります。そして、行事が終わった後などに感想を書かせると、それまで以上に一生懸命書くようになります。一生懸命書くことを続けさせると、子どもたちに力がついてきますね。



2 こんな内容を載せよう！

大切なことは、継続して発行することです。何気ない出来事の紹介で良いのです。

※発行は、1週間に1度ぐらいのペースがちょうどよいのではないかと思います。

- ・来週の予定
- ・現在授業で学習している内容
- ・受賞等の紹介
- ・学級での出来事（担任がエピソードを紹介するだけでなく、学級日誌の記事や生活ノートに書かれていたことなどを紹介することもできます。）
- ・子どもたちの作文や感想
（行事の後の感想、授業で書いた作文、道徳の時間の感想など）

- ・子どもたちの活動の様子を紹介する写真

※文章だけがダラダラ長い便りでは、なかなか読む気になりません。カットや子どもたちの活動の様子を紹介する写真も入れましょう。

- ・保護者へのお願い（持ち物、行事についての連絡等）

※基本的には、子どもたちの良い点をたくさん紹介しましょう。

時には、「学級の問題について、家庭で考えてください。」と投げかけることがあってもよいと思います。

また、学校からの一方通行にならないよう、保護者からの返信欄を設けて、感想などを記入していただくことも一つの案です。



3 こんなことに気をつけよう！

☆個人情報の取り扱い

保護者は、「学級だより」の中に自分の子どもの名前を見つけると喜びます。しかし、あまり良くない出来事の場合には、名前を載せるわけにはいきませんね。

また、特定の子どもばかりが紹介されるようでは、かえって不信感を抱いてしまいます。学級の全ての子どもを紹介できるようにしましょう。

※私は、紹介した子どもを名簿でチェックしていきました。



☆学年主任、管理職に許可（指導）を得て発行する。

「学級だより」は、学校から保護者に出す文書ですから、必ずチェックを受け、許可を得てから発行します。見てもらうことで、誤字脱字や変換ミスなどの単純なミスが防げます。また、学級の様子を、学年主任、管理職に知ってもらうことができます。